



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第49巻第  
5号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第49巻第5号). 泌尿器科紀要 2003, 49(5): 306-306

ISSUE DATE:

2003-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114958>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
  - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
  - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

#### Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.  
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

#### 編集後記

今年も国家試験を合格したばかりの新しい研修医が我々の教室に参加してくれた。全国にはいろいろな形の研修医の指導システムがあると思うが、我々のシステムは、助手以上の指導医と研修医のマンツーマンシステムである。指導医の数は6名程度で毎年ほぼ固定しているため、入局者が多い年は1人の指導医が2人の研修医を指導することになるが、今年は5名の入局であったためちょうど良い組み合わせになった。この指導医—研修医の組み合わせはよほどの事が無い限り1年間変わることは無い。初期研修の1年間、朝から晩まで同じ指導医のもとで研修を受けるため、研修医によっては「オーベン（指導医）といえば親も同然」状態となる。また、この主従関係は一生ついて回り、何かトラブルを起こそうものなら、誰がオーベンだったのかを問題にされるため、指導医にとっても緊張感のあるシステムとなっている。

このシステムは責任関係がはっきりしていて良い指導システムであると思われるが、これまで数多くの悲喜劇の原因にもなってきた。指導医にも研修医にも個性があり、良い関係が構築できる場合とそうでない場合がある。後者の場合には、お互いにとってその1年間は一生にも思われる長い1年となる。研修医は指導医の言いがかりにも近い無理難題に悩まされ、指導医は研修医の非礼無能ぶりに啞然とするのである。

指導医や研修医の性格などを勘案し、この組み合わせを決定するのは教授の仕事なのだが、私の人をみる目も疑わしいことがよくわかってきたので、最近は講師以上のシニアスタッフの合議で決めている。今年はどんな悲喜劇が繰り広げられるのか楽しみである。

(小川 修)

---

泌尿器科紀要 第49巻 第5号 2003年5月25日 印刷 2003年5月31日 発行  
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会  
 〒606-8392 京都市上京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100  
 FAX (075) 752-0190

[http://web.kyoto-inet.or.jp/people/acta\\_uro/index.html](http://web.kyoto-inet.or.jp/people/acta_uro/index.html)  
 印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入

---